

丸	谷	博	男	さ	ん	と	の	出	会	い	は	そ	の	時	で	し	た	。		
N	P	O	法	人	の	代	表	と	し	て	被	災	地	大	槌	に	た	く	さ	
ん	の	ピ	カ	ピ	カ	の	楽	器	を	持	っ	て	き	た	。	そ	れ	も	N	
H	K	交	響	楽	団	の	メ	ン	バ	ー	と	と	も	に	。	子	供	た	ち	
は	と	て	も	満	面	の	笑	み	で	喜	ん	だ	。							
5	か	月	後	に	仮	設	住	宅	が	出	来	る	と	と	も	に	離	れ		
離	れ	に	な	っ	た	家	族	が	一	緒	に	住	む	こ	と	に	な	っ	た	。
一	旦	転	校	し	た	小	学	生	の	次	女	と	保	育	園	の	三	男	も	
戻	っ	て	来	て	仮	設	で	は	あ	る	が	そ	れ	は	そ	れ	で	楽	し	
か	っ	た	。	長	男	は	大	学	進	学	で	関	東	に	行	っ	た	。		
お	か	げ	さ	ま	で	長	女	の	所	属	す	る	吹	奏	楽	部	は	4		
年	ぶ	り	に	県	大	会	に	出	場	し	高	校	に	上	が	っ	て	か	ら	
は	東	北	大	会	で	銀	賞	を	取	る	ま	で	に	成	長	し	た	。		
2、		そ	ら	ど	ま	と	の	出	会	い										
震	災	後	3	年	経	過	し	た	こ	ろ	家	族	が	住	む	新	し	い		
家	を	建	て	よ	う	。	と	決	意	し	た	。	太	陽	光	発	電	、	蓄	
電	池	や	H	E	M	S	を	採	用	し	て	電	気	の	エ	コ	ハ	ウ	ス	
を	建	て	省	エ	ネ	の	エ	コ	ハ	ウ	ス	を	建	て	よ	う	と	考	え	
て	い	た	。																	

その後、丸谷氏が建築家であることを知った。古川の家を見学に行った。なんと、ほんわかと温もりが有りやさしい家なんだろうと思った。そして勉強会に参加しその家の概要を知った。「これだ！私の求めている家は」と直感した。電気だけのエコハウスだほだめだ。肝心なのは建築だ。集熱を上手に取り入れられることで太陽の熱を活用出来る。また建物上部に溜まった熱を交換気設備で循環させ家中を循環させエネルギーを無駄にしない。遮熱をしっかりととることで夏の太陽熱を上手に反射できる。壁材や窓、シート、断熱材を上手に使うことで保温生が増し、調湿もする呼吸する壁になる。

空気の流れを考えないとエネルギーが無駄になる。住環境も悪くなる。カビが生える。健康を害する。ひいては無駄なエネルギーの排出が地球温暖化につながっていくのではないかとも思った。化学物質を抑えているのでシックハウス症候群の対策も万全だ。

古	川	の	家	で	一	番	目	に	つ	い	た	の	は	地	熱	ヒ	ー	ト	
ポ	ン	プ	に	よ	る	冷	暖	房	シ	ス	テ	ム	だ	。	年	間	通	し	て
一	定	し	た	地	下	1	0	0	m	間	を	利	用	し	熱	交	換	す	る
と	い	う	す	ぐ	れ	も	の	。	か	な	り	の	省	エ	ネ	に	な	る	。
こ	ん	な	家	を	建	て	た	い	と	決	意	し	そ	の	後	、	丸	谷	
氏	と	そ	の	工	法	に	賛	同	し	た	上	野	工	務	店	さ	ん	と	と
も	に	高	木	邸	を	新	築	す	る	こ	と	に	な	っ	た	。			
3、		高	木	邸	新	築	工	事	開	始									
	平	成	2	8	年	9	月	に	新	築	工	事	が	始	ま	っ	た	。	特
別	工	法	の	基	礎	、	構	造	柱	と	基	礎	を	つ	な	ぐ	鋳	物	の
接	続	金	具	。	グ	リ	ー	ン	化	事	業	の	活	用	に	よ	り	奥	多
摩	産	材	の	採	用	。	土	の	壁	、	各	種	ボ	ー	ド	、	シ	ー	ト
が	次	々	と	塗	ら	れ	貼	ら	れ	茶	色	、	白	、	アル	ミ	色	と	
毎	日	の	よ	う	に	色	が	変	わ	る	高	木	邸	七	変	化	。	近	所
の	方	々	も	ビ	ッ	ク	リ	し	て	い	た	。	あ	ら	ゆ	る	も	の	が
新	し	い	。	ワ	ク	ワ	ク	し	て	く	る	現	場	だ	。				
	電	気	技	術	者	と	し	て	自	営	業	で	有	る	の	で	設	備	は
全	て	自	分	で	納	品	し	た	。	分	離	発	注	の	難	し	さ	を	実
感	し	た	。	メ	ー	カ	と	大	工	さ	ん	の	間	に	入	り	調	整	す

る作業は初めてで私なりに苦労した。しかし一番苦労したのは工務店や大工さんであろう。新しい工法で問題点が発生するとしばらく進行が止まる。その繰り返しで設計と工務店そして施主が一緒に作り上げるすばらしい共同作業だ。

地熱利用の為にボーリングにも立ち会った。地下15mで地下水の水脈。25mは河原の砂利層。60mは粘土層。80mで完全に岩盤になりドリルの先端が持たず中止になった。ボーリング屋さん曰く「砂利層、粘土層が多。地熱利用にはとても有効な土地です」とのこと。何百年暮らすこの地域では初めて経験。

4、そらどまの家に対する夢

もうすぐこの家が完成し夏には家族7人全員集合する。この家は夏はさわやかに涼しい。冬はほのかに暖かい。2階リビングの大きな窓からはさんさんと太陽の光が差し込み、バルコニーには芝生と家庭菜園で緑が有る。そ

の気化熱で建物も冷やされ夏は涼しい風が入
ってきてくる。キッチンから振り返ると階段上の
空間を通り越して学習コーナーで勉強する小
中学生。広いリビングではテレビやゲームで
楽しむ笑いの絶えない家族、防音効果もしつ
かりとしっかりとしているのでミニコンサー
トも出来る。1階の和室2室には壁にコンセ
ントが見えない純和室。ここでお茶の手ほど
きを受けよう。広い玄関ロビー、熱交換機の
ジャバラダクトを隠す建具はまるでモニュメ
ントのようで芸術的だ。HEMS導入するの
で回路毎の消費電力の見える化や、スマホで
無駄な照明を遠隔で切ることが出来るように
なる。
ここで震災で壊滅した高木邸が新たな形で
再開する。子供たちが帰省するのも楽しみだ。
震災が発生してから6年余り。たくさんの方
と出会った。たくさんの方に支援をいただいた
た。その結晶がこのそらどまの家である。協
力して頂いた全ての方に感謝申し上げます。

5、 そらどまの家に期待すること、私の抱負
住環境にやさしい、地球にやさしいそらど
まに家が全国に普及することで引いては地球
温暖化の改善、CO₂削減になる。発電所を
減設することにつながる。

そのために電気技術者である私は次のこと
を考えている。

① そらどま換気システムや地熱ヒートポンプ
の有効活用省エネ
運用方法の改善によりさらなる省エネや使
いやすさを研究する。

② そらどまシステムエンジニアになる。
設備に関する個別の技術をトータルで習得
し今後の建築、改善や提案が出来るように
なる。

③ 木造の小さな事務所に太陽光、風力、水力
等の再生可能エネルギーを利用し完全そら
どまのモデルハウスを作ってみたい。未来
は楽しい毎日が待っているだろう。以上